

# 保証書

持込修理 無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ、無料修理いたします。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
  - (イ) 使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造等による故障及び損傷
  - (ロ) お買い上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
  - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛り等による故障及び損傷
  - (ニ) 消耗または摩耗した部品、付属品の交換
  - (ホ) 本書のご提示がない場合
  - (ヘ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合、あるいは文字を書きかえられた場合（但し、販売店シールや領収書でも未記入項目の代用となります）
  - (ト) 本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
  - (チ) 一般家庭用以外（例：業務用、または業務用に準ずる使用方法）で使用された場合の故障及び損傷
- ご贈答、ご転居等で本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

商品名 電気ケトル				★お買い上げ日: 年 月 日	
型番	COK-WS90B-W	品番	08-1428	保証期間: 本体1年間(お買い上げの日から)	
お客様	フリガナ ★お名前 様				
	★ご住所 〒 -				
	電話 ( )				
修理メモ					
販売店	★住所 店名 電話				印

(注) ★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

- ※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
- ※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- ※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- ※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

**OHM** 株式会社 オーム電機  
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8  
<https://www.ohm-electric.co.jp>

製品に関するお問い合わせは **お客様相談室** へ  
 ●通話料無料 ●携帯・IP・公衆電話からは  
**0120-963-006 048-992-2735**  
 電話受付 平日 9:00~17:00  
 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

修理に関するご相談は **修理ご相談センター** へ  
 電話受付 **048-992-3970** 平日 9:00~17:00  
 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます



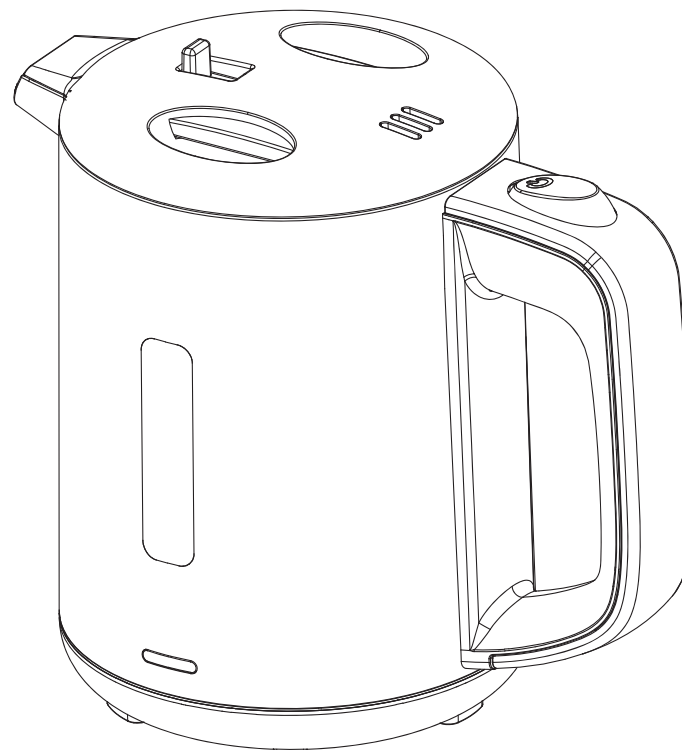
# 電気ケトル 保証書付取扱説明書

型番: **COK-WS90B-W**

品番: **08-1428**

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。  
ご使用前には必ずこの取扱説明書を最後までお読みになり、正しくお使いください。

この説明書は、ご使用になるお客様が保管してください。





必ずお読みください



# 安全上のご注意







ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、  
記載事項をお守りいただき、正しくお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

●表示について：表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



	<b>警告</b>	この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	<b>注意</b>	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。





●お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明しています。(下記は図記号の一部です)

	<b>禁止</b>	この図記号は、してはいけない「禁止」内容です。
	<b>指示</b>	この図記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

 <b>警告</b>	
 必ず守る	<p>電源プラグは根元まで確実に差し込む。 湿気などで絶縁不良となり、火災や感電のおそれがあります。</p> <p>電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く。 湿気などで絶縁不良となり、火災や感電のおそれがあります。</p>
 電源プラグを抜く	<p>お手入れのときは必ず電源を切り電源プラグを抜いてから行う。 けがや感電のおそれがあります。</p>
 ぬれ手禁止	<p>電源プラグはぬれた手で抜き差ししない。 感電事故の原因となることがあります。</p>
 分解禁止	<p>お客様自身での分解、改造、修理はしない。 火災や感電、けがのおそれがあります。販売店に修理を依頼してください。ご自身で分解、改造、修理を行った場合は保証の対象となりません。</p>
 電源プラグを抜く	<p>電源コードが傷んだり、電源コンセントの差し込みがゆるいときは使わない。 感電やショートによる発火の原因となることがあります。</p>
 禁止	<p>ケトル本体の底部や電源プレートを水につけたり、水にぬらしたりしない。 ショートしたり、感電するおそれがあります。</p>

①

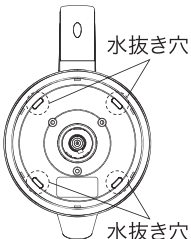
 禁止	<p>電源は、交流100Vで定格15A以上の電源コンセントを単独で使う。 交流100V以外で使ったり、コンセントを他の器具と併用したり、延長コードを使用すると発熱による火災の原因になります。</p> <p>電源コードに重い物を載せたり、無理に折り曲げたり、束ねたり、引っ張ったりしない。 火災や感電のおそれがあります。</p> <p>本体を傾けたり、ゆすったり、ふたを持って移動しない。 湯が流れ出て、やけどのおそれがあります。</p> <p>ふたは確実に取りつける。 倒れたときに湯が流れ出て、やけどのおそれがあります。</p>	 禁止	<p>直火(ガス台など)や電磁調理器(IHクッキングヒーター)、電気ヒーターの上にはのせない。 火災、誤動作、故障の原因になります。</p> <p>お子さまただけのご使用や、お子さまの手の届く場所で使用しない。 けがややけど、感電のおそれがあります。</p> <p>壁や家具などの近くでは使用しない。 蒸気や熱で壁や家具を傷めたり、変色、変形などの原因となることがあります。</p> <p>使用中や使用後しばらくは高温部に触れない。 やけどの原因になります。</p> <p>ケトルを転倒させない。 湯が流れ出て、やけどをするおそれがあります。</p>
---	---	---	---

 <b>注意</b>			
 必ず守る	<p>水平の安定した場所に設置する。 本体が倒れ、やけど、けがのおそれがあります。</p> <p>電源コンセントの近く(電源コンセントの抜き差ししやすい場所)に設置する。 火災や感電、故障のおそれがあります。</p> <p>使用中は本製品から離れない。 発火や故障のおそれがあります。</p> <p>お手入れは冷めてから行う。 感電ややけどのおそれがあります。</p>	 禁止	<p>火気の近くや油のかかる場所で使用しない。 火災や感電のおそれがあります。</p> <p>ふたを開けた状態では、湯を沸かさない。 沸騰しても自動で電源がオフされずに湯を沸かし続け、湯が本体から飛び出すなど危険です。</p> <p>湯沸かし中または湯沸かし直後は、ふたを開けたり、注ぎ口に触れたり、蒸気に手を近づけたりしない。 注ぎ口などから熱い蒸気が出て、やけどをするおそれがあります。</p> <p>牛乳を沸かす、紅茶を煮出す、スープを作るなど、水以外のものを入れたり、沸かさない。 ふきこぼれて、やけどをするおそれがあります。さらに、故障や汚れの原因にもなります。</p> <p>電源プレート中央の接続部(金属部)にピンを差し込んだり、ゴミを付着させない。 感電、ショート、発火の原因になります。</p> <p>家庭用なので業務用として使わない。</p> <p>空だきはしない。 火災・故障の原因になります。</p>
 禁止	<p>専用の電源プレート以外は使わない。また、付属の電源プレートを他の機器に転用しない。 発火、故障の原因になります。</p> <p>湯沸かし中は、移動させない。 湯が流れ出たり、蒸気でやけどをするおそれがあります。</p> <p>本製品を落としたり、強い衝撃や振動を与えない。 火災や故障のおそれがあります。</p>		

## 使用上のご注意

- ケトルに水が入ってないときは、スイッチをオンにしない。  
故障の原因になります。
- 本製品には保温機能はついていません。
- 本製品は必ず屋内で使用してください。

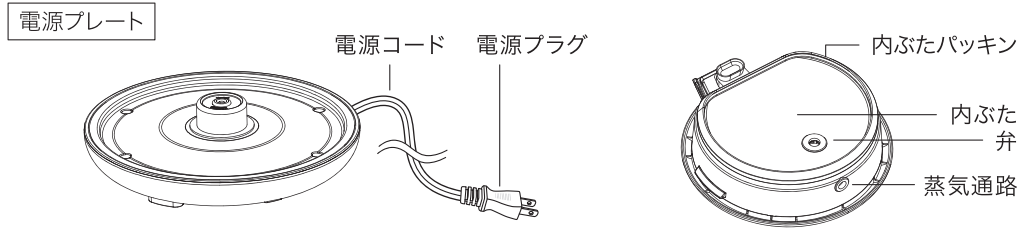
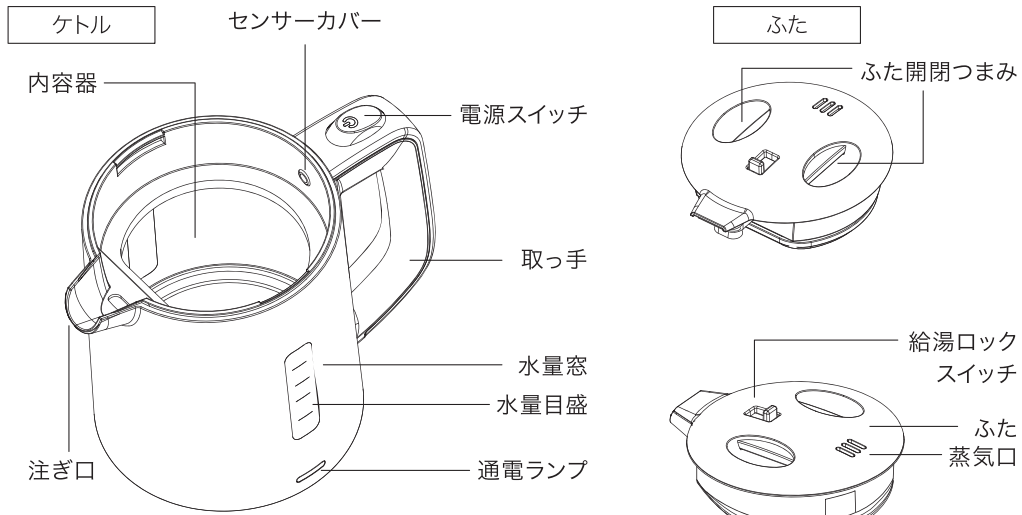
- 水をケトル本体に入れた状態でケトルを倒すとハンドル内部に水が伝わって底部に入ることがあります。ケトル本体底部にある水抜き穴から水が外部に出たことを確認のうえ、ご使用ください。



<ケトル本体底>

②

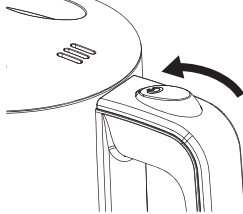
## 各部の名称



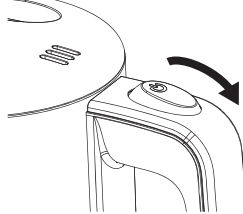
### 電源スイッチ操作部

電源スイッチの上側を押すと電源が入り、通電ランプが点灯します。

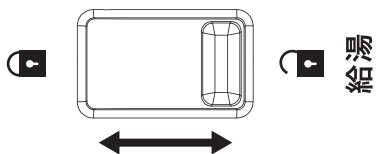
### 電源「入」の場合



### 電源「切」の場合



### ロック操作部



### 〈ロック〉

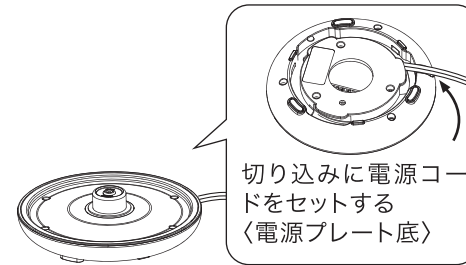
給湯ロックスイッチが のときは、注ぎ口からお湯が出ません。注ぐとき以外はロックにしてください。

### 〈給湯〉

給湯ロックスイッチを「給湯」にスライドさせると、注ぎ口からお湯を注ぐことができます。

## 使用する前に

### 1.電源コードをセットする

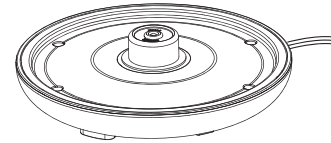


- 電源プレートの切り込みに電源コードを確実にセットしてください。
- 電源コードを巻き付けたまま使用しない。

### お知らせ

コードリールではありませんので、電源コードをひっぱって長さを調節することはできません。

### 2.電源プレートを置く

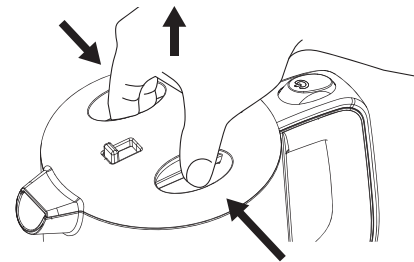


- 電源プレートは清潔で平らなところに置きます。



付属の電源プレート以外は使用しないでください。

### 3.ふたのはずし方・つけ方 ※製品が倒れないようご注意ください。



### はずし方

- ①ふた開閉つまみをつまむ
- ②そのまま引き上げ、ふたをはずす。

### つけ方

- ①ふた開閉つまみをつまむ
- ②そのまま引き下げ、ふたをつける。



注意

- 万一製品が転倒した場合、製品を起すときに注ぎ口に手などを近づけないようご注意ください。
- 万一製品が転倒した場合、製品を起したあとは、ふたをはずし、ふた内部にたまったお湯をふたの注ぎ口側から出してください。
- ふた内部にたまった湯が注ぎ口や蒸気通路から出ることがあるのでご注意ください。
- ふたをはずすときは、注ぎ口やふた内部からのしずくが手にかからないように注意してください。
- ふたが完全に取り付けられていることを確認してください。ふたが傾いていると完全には取り付けられていません。側面のすきまが見えなくなるまでふたを確実に押し込んでください。

## 使用方法

- 初めてケトルを使用する際は、念のため最初の2～3回はすすいでからご使用ください。
- 電源プレートの上に本体を載せた状態のまま水を注ぐことはおやめください。
- ミネラルウォーターやアルカリイオン水を使用すると、水面に細かな浮遊物や本体内部に乳白色のザラザラしたものがつく場合があります。これは水の成分(ミネラル分)であり、有害ではありません。
- 水を入れすぎると、沸騰時にふたが吹き飛ぶ危険がありますので、MAX目盛(1L)を超えて水を入れしないでください。また、水を入れないうまま、空焚きをしないでください。故障の原因になります。
- 水以外のものは沸かさしないでください。故障の原因になります。
- ふたがきちんと閉まっているのを確認してください。ふたがきちんと閉まっていないうま湯が沸いても電源が切れない場合があります。



注意

### 1.ふたをはずし、別の容器で水を入れる


- MAX目盛(1.0L)以上、水を入れしないでください。沸騰時にふたが吹き飛ぶ危険があります。
- 蛇口から水を直接入れたり、流し台に置いて底面をぬらしたりしないでください。故障の原因になります。



注意



### 2.ふたを取り付け、本体を電源プレートにセットする

- ①ふたを取り付け、給湯ロックにする。
- ②電源スイッチが「切」になっていることを確認し本体を電源プレートにセットする。



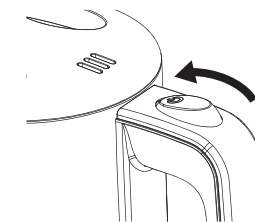
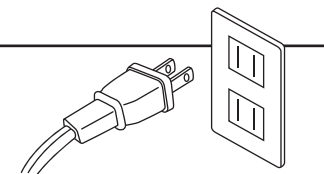
注意

- 本体接続部を電源プレート接続部に合わせて正しくセットしてください。正しくセットしないと電源が入りません。

## 使用方法(続き)

### 3.湯沸かしを開始する

- ①電源プラグを電源コンセントに差し込む。
- ②給湯ロックボタンがロックになっていることを確認し、電源スイッチを押す。
- ③通電ランプが点灯し、湯沸かしを開始。



注意

- ふたが完全に取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていないと、湯沸かしが完了しても電源が切れない原因になります。

### 4.湯沸かしが完了すると、自動的に電源が切れる

- 通電ランプが消灯し、電源スイッチが元に戻ります。

- 電源スイッチを押し続けて湯沸かしを無理に継続しないでください。ふたが吹き飛び、故障・やけどの原因になります。
- 湯沸かしが完了する前に電源を切る場合は、電源スイッチの下側を押して電源を切ってください。
- 湯沸かし完了後しばらくは、ふたをはずしたりつけ直したりしないでください。やけどの原因になります。
- 湯沸かし中は本体が熱くなるので、さわらないでください。また、蒸気口にさわらないでください。やけどの危険があります。



注意



湯沸かし時間: 約8分

※室温25℃・水温20℃・定格消費電力・MAX目盛(1.0L)の場合

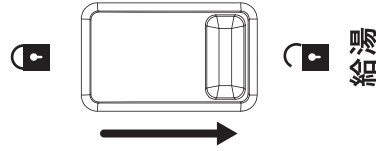
### お知らせ

- 本製品は蒸気を感じて電源が切れる仕組みになっています。この蒸気が水滴となって本体の底から垂れることがありますが、故障ではありません。また、故障の原因になることもありませんので、安心してお使いください。
- 使用後しばらくすると、「カチッ」と音がすることがありますが、これは熱せられたセンサーが冷めるときに発生する音ですので、製品に問題はありません。安心してお使いください。

## 使用方法(続き)

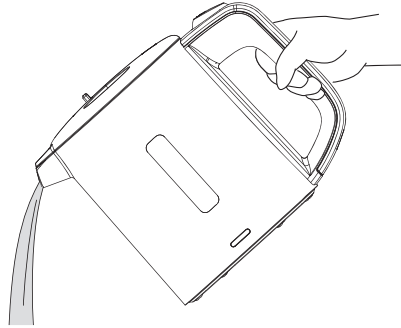
### 5.お湯を注ぐ

- ①通電ランプが消えていることを確認し、ハンドルを持って本体を電源プレートからはずす。
- ②給湯ロックスイッチを解除にする。
- ③ゆっくりと傾けて湯を注ぐ。
- ④注ぎ終わったら、本体を水平に戻し、給湯ロックスイッチを再度押してロックする。



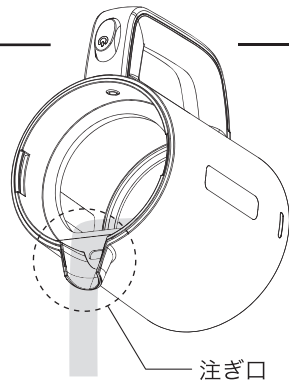
注意

- 沸騰状態がおさまってからお湯を注いでください。
- ロック状態でも、製品を転倒させたり、傾けたり、揺するなど絶対にしないでください。
- 急に傾けたり、注いでいる間に給湯ロックスイッチを押したり、ふた開閉つまみに触れないでください。やけどのおそれがあります。
- 電源プレートに戻すときは、電源スイッチが「切」になっていることを確認してから戻してください。
- 使用後は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 給湯ロックはふたをロックするものではありません。



### 6.残り湯を捨てる

- ①ふたをはずす
- ②ハンドルを持ち、ゆっくりと傾けて注ぎ口から残り湯を捨てる。



注意

- 湯捨て位置以外から湯を捨てないでください。故障の原因になります。
- 使用後は湯を残さず、内容器を空にしてください。水垢の付着、においの原因になります。

#### 空焚き防止

内容器が空の状態では電源スイッチを押すと、過熱による事故を防ぐために空焚き防止機能が働き、自動的に電源が切れ、通電ランプが消灯します。

電源スイッチを必ず「切」にし、いったん本体を電源プレートからはずして内容器が十分にさめてから水を入れ、再びお湯を沸かしてください。



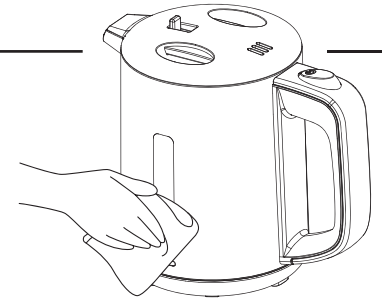
## お手入れのしかた

安全のため、電源プラグを抜き本体・周辺が冷めてから行ってください。

各部のお手入れの際、金属製・ナイロン製のたわしや、みがき粉、ベンジン、シンナー、漂白剤などを使用しないでください。

### 本体外側のお手入れ

- ぬるま湯で薄めた台所用中性洗剤を含ませたふきんなどを固く絞り汚れを拭き取ります。
- その後、水分を完全に拭き取ります。



〈冷めてから拭く〉

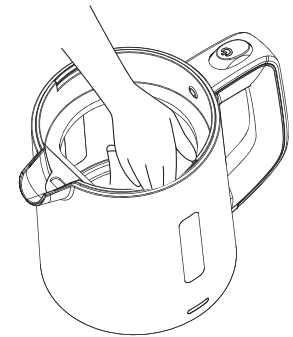


注意

- ケトル本体と電源プレートを水に浸けることは絶対におやめください。故障の原因になります。

### 本体内側のお手入れ

- 内側の汚れが目立ってきたら、定期的にお手入れをしてください。
- なお、本体内側の汚れ(白い浮遊物、虹色などの変色、白いはん点、赤さび状のはん点など)は、水に本来含まれるミネラル成分の作用によるものです。衛生上の問題はございません。



#### 通常のお手入れ

水でよくすすいだ後、乾いたふきんなどでしっかりと拭いてください。

#### 本体内側の汚れが落ちにくい場合

- ①水をMAX目盛(1L)まで入れ、その中にクエン酸(20g程度)を入れて、かき混ぜます。
- ②ふたを閉めて沸とうさせ、その後、約1時間放置します。
- ③お湯を捨て、水で十分にすすぎます。
- ④クエン酸のにおいが気になる場合は、水だけを入れて、再度沸とうさせ、お湯を捨ててください。



注意

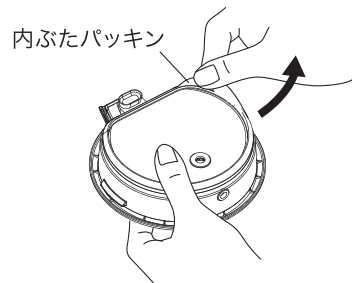
内側底部のステンレス部分をお手入れする際は、柔らかいスポンジをお使いください。また、ステンレス部分は強くこすらないでください。表面に傷がつくおそれがあります。

**お手入れのしかた(続き)** 安全のため、電源プラグを抜き本体・周辺が冷めてから行ってください。

**内ぶたパッキンのお手入れ**

**はずし方**

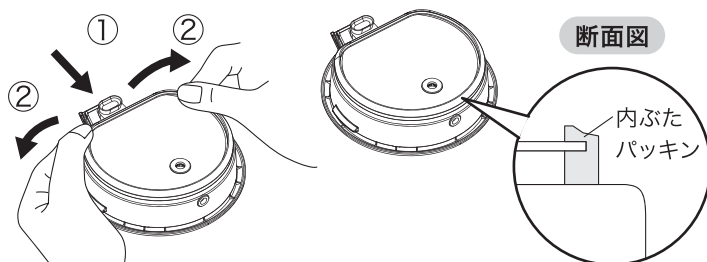
ふたをしっかり押さえ、内ぶたパッキンをはずす。



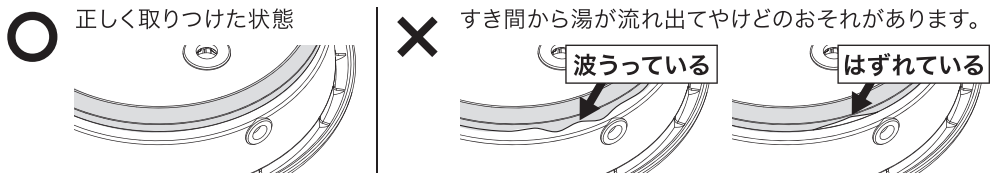
- 内ぶたパッキン以外の部品をふたからはずさないでください。やけどのおそれがあります。
- 内ぶたパッキンは強い力で引っ張らないでください。破損の原因になります。

**つけ方**

- ①ふた外周に内ぶたパッキンを引っかける。
- ②内ぶたパッキン全周を図の通りきっちりとはめ込む



**内ぶたパッキンの取付状態を確認してください**



**仕様**

商 品 名	電気ケトル
定 格 電 圧	AC100V 50/60Hz
定 格 消 費 電 力	900W
本 体 寸 法	(約)幅222×高さ200×奥行144mm(ベース含む)
最 大 容 量	1.0L
質 量	本体:約719g、全体:約895g
コ ー ド 長	約0.7m

※製品改良のため、予告なく仕様変更する場合があります。  
※型番、商品番号は器具本体に貼ってあるラベルをご参照ください。

**故障かなと思ったら**

症 状	原 因	対 策
電源が入らない。	●電源コンセントに電源プラグが入っていない。	◎電源プレートの電源プラグを確実に電源コンセントに差し込んでください。
	●沸とう直後は、電源を自動的に切るためのセンサーが熱くなっているため、電源スイッチが入らないことがある。	◎センサーが冷めるまでしばらく待ってから、電源スイッチを入れてください。
	●空だきをしたため、安全装置が作動して、ヒーター部への通電が自動的に切れた。	◎電源スイッチを切り、ケトル本体を電源プレートからはずし、熱を冷ましてから水を入れてください。
お湯を沸かすとプラスチック臭がする。	●プラスチック製電気製品(本製品)は、一般的にプラスチック部分が熱で温められることにより、プラスチック特有のにおいが出ます。(使用経過とともににおいは少なくなります。)	◎においが気になる場合は、以下の手順でお手入れをしてください。 [クエン酸によるにおい軽減の方法] ①水をMAX目盛(1.0L)まで入れ、その中にクエン酸(20g程度)入れます。 ②よくかき混ぜてクエン酸を溶かします。 ③ふたを閉めて沸とうさせ、その後、半日(約12時間)放置します。 ④お湯を捨て、水で十分にすすぎます。
	自動電源OFFが機能しない。	●本体の水の量が少ない。 ●ふたがしっかり閉まっていない。
ふたが吹き飛ぶ	●MAX目盛(1.0L)より多くの水が入っている。	◎水量をMAX目盛(1.0L)以下に減らしてください。
	●水以外の飲料が入っている。	◎水以外は沸かさないでください。

上記の点検または処置をしても異常が直らなかつたり、原因がわからないときは、電源プラグを電源コンセントから抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。